

今日のキーワード 「街角景気」、家計の先行きが上昇（日本）

「景気ウォッチャー調査」は、内閣府が毎月実施する景況感に関する調査で「街角景気」調査とも呼ばれます。タクシー運転手やコンビニエンスストアの店長、レストラン経営者など、景気に敏感な約2,000人が調査対象（ウォッチャー）です。3カ月前と比べたその時点の景気と、2～3カ月先の景気予測を調査します。算出された指数から好不況を判断する際の中立水準は、50ポイントです。

ポイント1

現状判断DIは2カ月連続で低下

中国の景気減速懸念、株安が影響

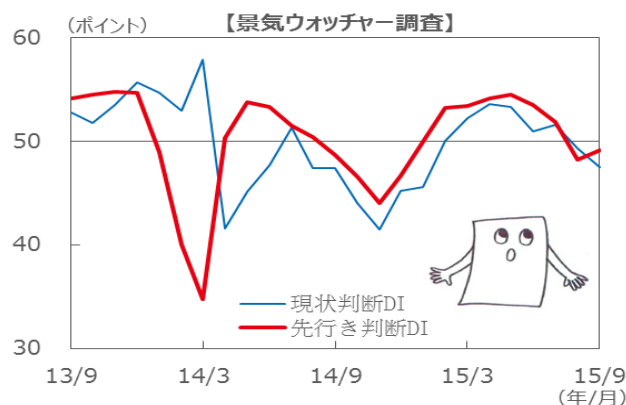
- 9月の「景気ウォッチャー調査」（調査期間9月25日～30日）は、「現状判断DI」が前月から1.8ポイント低下の47.5ポイントと、2カ月連続で低下しました。また水準も、中立の50ポイントを2カ月連続で下回りました。中国の景気減速懸念から世界的な株安が消費マインドの低下につながったと見られます。
- 街角の声には、「中国の景気後退の影響を受け、海外向けの受注が減っている（南関東の金属製品製造業）」といった声が聞かれました。

ポイント2

先行き判断DIは上昇

家計動向が上昇に転じる

- 2～3カ月先の見通しを示す「先行き判断DI」は、前月から0.9ポイント上昇の49.1ポイントとなりました。企業動向、雇用関連のDIは低下しましたが、家計動向のDIが小売り、飲食、サービスなどいずれも上昇したことが背景です。
- 街角の声には、「年末商戦に向けて明るさが出てくると期待している。プレミアム付き商品券の期限もあり、一定の上積み効果が顕在化するとも考えられる（南関東の家電量販店）」など、消費の改善に期待する声が聞かれました。



(注) データは2013年9月～2015年9月。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開

株式市場の底入力で、消費マインドは徐々に改善へ向かおう

■株式市場が落ち着くにつれ、悪化に歯止め

今回の調査では、中国の景気減速懸念にはじまる世界的な株安の影響がうかがわれました。中国景気は、景気対策の余地から大きな下振れは回避されると見られるうえ、10月に入り世界の株式市場は反発に転じており、景況感の悪化も底打ちが期待されます。

■個人消費の回復に期待

消費マインドは、賃金上昇に加え、ガソリンなど物価の落ち着きから、今後、緩やかな改善が期待されます。現在までのところインバウンド需要も旺盛です。小売り、サービスを中心に消費支出の増加が見込まれ、ウォッチャーの景況感も改善することが期待されます。

ここも チェック!

2015年10月 1日 日銀短観、設備投資計画が上方修正
2015年 9月29日 「物価」下落でも基調はしっかり? (日本)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。